

西表島の準絶滅危惧種のマヤブシキについて

西表森林環境保全ふれあいセンター 自然再生指導官 野邊忠司

1 はじめに

マヤブシキは、熱帯及び亜熱帯のマングローブに生える常緑の小高木で、高さ13mに達します。日本では、沖縄県の八重山地方の島々（石垣島、小浜島、西表島）のみに自生しています。マングローブ植物の中では河口域に生育していますが、河口域の開発により自生地が減少傾向にあります。このため、環境省のレッドデータブックの中で、現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種である準絶滅危惧種（NT）に分類されています。

西表島では南部の大原から東部の美原にかけて生育していますが、美原から北西部の白浜（県道の終点）までは生育しておらず、これまで北部及び西部地域では、生育していないのではないかと考えられていました。

この度、西表森林環境保全ふれあいセンターで陸路でのアクセスが困難な西表島西部のマヤブシキ生育状況について備船して調査を行いましたので、その結果を報告します。

2 生育地の概況

1) ウダラ川

所在地

沖縄県八重山郡竹富町字西表国

有林163い林小班

位置図は右記を参照

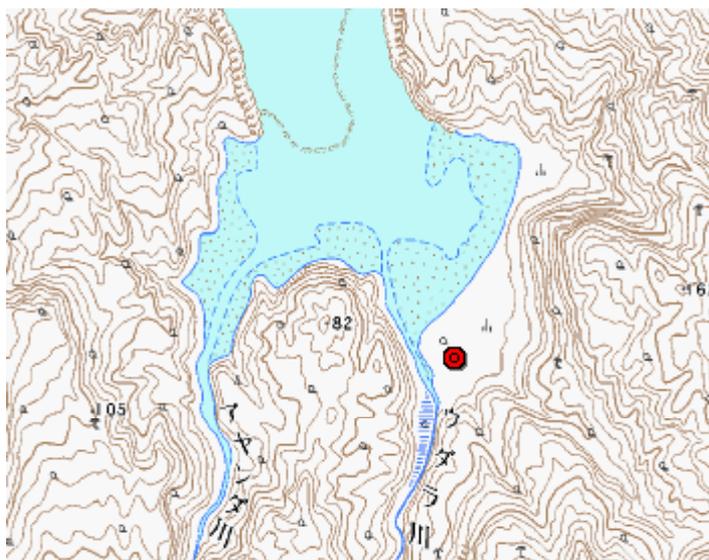
樹高、胸高直径

5個体が生育

- ・ D = 24 cm、H = 10 m
- ・ D = 6 cm、H = 5 m
- ・ D = 6 cm、H = 5 m
- ・ D = 3 cm、H = 5 m
- ・ D = 16 cm、H = 8 m

周辺状況

周辺は満潮時に海水が浸る泥湿地帯で、オヒルギ及びヤエヤマヒルギの混生したマングローブ林が発達しています。



3 マヤブシキの保護に当たっての留意事項

本地域は、水源涵養保安林に指定されており、開発される可能性も少ないことから現存のまま手を加えずに定期的にモニタリングすることが必要です。

参考資料

マヤプシキについて

- 1 和名 マヤプシキ
- 2 学名 *Sonneratia alba*
- 3 科及び属 ハマザクロ科ハマザクロ属
- 4 特徴

根：親木のまわりにまっすぐ上を向いた根を地上に出します

幹：幹の表面には長い割れ目がみられます

葉：葉の形は卵形で、葉の先は丸みを帯びています

花：花びらはありません。白く咲いているのは、おしべで、その中心で緑色をしているのがめしべです

実：1つの実の中には150 - 200個の小さな種がたくさん入っています



根

葉



花

実

